

(6) 鉄鋼業（鉄素形材製造業を除く）

18/17 19/18 ◎ 伸び率10%以上 ● 伸び率0～▲10%
: 天気図マーク; ◎ ○ ○ 伸び率0～10% ● 伸び率▲10%以下

1. 企業経営動向

(1) 需要

平成18年の普通鋼鋼材の受注（内需）は、建設向けで対前年比2.0%増、製造業向けで同比4.4%増、全体計では同比3.0%減の5,640万トンとなった。また、特殊鋼鋼材の受注は、製造業向けが同比5.0%増と増加したことを主因に全体計では同比3.7%増となった。製造業向けのうち、自動車向けが同比2.8%増、産業機械向けが同比9.4%増と堅調に推移。

平成18年の全鉄鋼輸出は、同比7.9%増の3,519万トンとなった。向け先別にみると中国向けが同比7.2%増と増加に転じ、東南アジアでも同比3.4%増、また欧州向けも同比1.9%増となった。

(2) 生産・設備稼働

平成18年の我が国粗鋼生産量は、高い需要に支えられ、前年比3.3%増の1億1,623万トンと、7年連続で1億トンを超える生産水準となった。

平成18年の普通鋼鋼材生産は、同比2.6%増の8,131万トンとなった。一方、特殊鋼鋼材は同比2.5%増の2,006万トンと、初の2,000万トン乗せとなり、平成14年以降5年連続で過去最高を更新した。

普通鋼鋼材の国内在庫は、平成19年3月末で536万トン（在庫率95.7%）と、前年同月比1.5%増となった。

平成18年の鉄鋼生産量については、前記のとおり17年比増と堅調に推移したことから、設備稼働率は、高水準で推移した。

(3) 企業収益

高炉5社（連結）決算状況

（単位：億円）

	15年度	16年度	17年度	平成18年度見通し
売上高	81,911	94,095	107,808	110,100
経常利益	5,373	11,815	15,855	13,650

高炉5社の平成17年度決算は、売上高107,808億円、営業利益16,898億円、経常利益15,855億円、当期利益10,003億円となった。

各社の経常利益の水準は、過去最高の水準となった。

国内の数量・価格の改善傾向を反映し、前年度比では営業利益は約3,800億円の増、経常収益では約4,000億円の増となった。

(4) 財務

高炉5社（連結ベース）の有利子負債残高は、平成18年3月末現在で約3兆8千億円となり、前期と比べて約8千億円減となっており、有利子負債の削減に努めている。また、各社とも引き続き有利子負債残高の削減を進める方向。

2. 設備投資動向（グラフ1参照）

(1) これまでの設備投資の推移

鉄鋼業の設備投資額は、平成18年度実績見込で7,205億円（17-18共通回答企業58社ベース）と平成17年度実績に比べて1,773億円の増加となっている。近年は、旺盛な鋼材需要を背景に各社が積極的に生産能力増強、更新、維持・補修のための設備投資を行っている。

(2) 平成19年度の設備投資計画

平成19年度設備投資計画額は、7,736億円と平成18年度実績見込7,120億円と比べて616億円の増加となっている。（18-19共通回答企業57社ベース）

19年度も、各社旺盛な鋼材需要を背景とした積極的な設備投資を予定している。

3. 長期資金調達・運用動向

長期資金調達については、ほとんどの企業がバランスシート改善のため、資金の流動性を高め、長期資金から短期資金へシフトさせている傾向にあったものの19年度計画においては短期資金から長期資金へのシフトを見込む。

(グラフ1：設備投資の前年度比の推移)

(前年度比%)

鉄鋼（平成8年度から鉄素材系を除いている）

